

第7回北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和4年1月19日(水) 19:10~20:50
開催場所	北川村立北川小学校 多目的ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 森本委員、小笠原委員、田中委員、山崎(美)委員、山崎(和)委員、田所委員、阿部委員 永野委員、伊庭委員、倉斗委員及び中山委員(リモート参加) 計11名 ■ アドバイザー 柳川アドバイザー ■ GPMO 湯川 ■ 事務局 野見山副村長、西岡教育次長、百々次長補佐、溝渕主幹
議題	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 前回内容の確認</p> <p>(3) 北川村の教育の方向性及びサウンディング結果等について</p> <p>(4) その他</p> <p>・ 次回の検討委員会について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 第6回検討委員会議事録 ・ 資料2 北川村の教育の方向性及びサウンディング結果等について ・ 資料3 今後の検討委員会日程について

議事経過	<p>(1) 開会</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局挨拶
議事経過	<p>(2) 前回内容の確認(第6回検討委員会議事録【資料1】)</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】に基づいて説明
議事経過	<p>(3) 北川村の教育の方向性及びサウンディング結果等について【資料2】)</p> <p>【事務局・柳川AD】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料2】を基に説明 <p>その後、会場とオンラインに分かれてグループワークを実施。</p> <p>【柳川AD】(オンライン上のグループワークを報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山委員からは、特に幼児教育なども含めて、全体的な中で自分が何をしたいのか、あなたは何をしたいのかという問いかけを意識しながら環境を作っていくことが大切であり、その中で、自己表現あるいは自分を出していけるような子どもたちであってほしいし、私はこうだということがしっかりとと言える子どもたちを育ててほしいというご意見があった。また、先生の力量形成によって、そういうことが引き出せる学校環境があるといいのではないかというお話があった。 ・永野委員からは、遊び心満載に新しいキャッチフレーズをいただき、「きらくにたがやす かかわり わだち」このそれぞれの言葉の頭をとると北川(きたがわ)になる。どうしても難しい話をしていかなければならない中で、こういう遊び心を持ってみんなが楽しんでいく環境を考え、子どもたちがこの村に魅力を持ってもらい、大人の姿を見て自分もこういうことをやってみようと思ってもらうことが大切なのではないかというご意見をいただいた。 ・倉田委員からは、たくさん学校抱えている自治体とは違って、保小中ひとつずつしかない北川村では、一つこれを成し遂げたならこの村は変わるという重みもあるのかもしれないけども、逆に一つでいいのだから、もっと楽しく大人も楽しく気軽に考えていけるような基本計画書であってほしいと願っているというご意見があった。また、目標とか指針について今後の取り組みの課題になってくると思われるが、具体的にどういうステップで進めていくのか踏み込んで考える状況を今後作っていけると良いのではないかという話が出ていた。 ・伊庭委員からは、財政というものを考えたときに、夢があることはいいが、財政負担を考え、壮大なものを作るだけではなく、簡素であっても魅力的なものではできるとの話があった。そういう中で、今の学習指導要領がはやくも次の改訂を考えていく時期に来ていて、今建物を考えたとしてもできあがるのは数年後であれば、数年間のギャップが出て、設備も新しいものが出てくる可能性もある。施設の空間に付随されていくものについて、教育のあり方も含めて、地域の意見を吸い上げるシステムの中で、柔軟に可変していけるような柔らかさのある建物を目指していくことも大切ではないかという話があった。また、何のためにというところを大事にすべきではないか、地域に発信していくことも多様性を育むことも大事だが、単に外部に向いているだけではなく、村の子どもたちのためではないかというようなことも大切であるという意見も出ていた。

【事務局】（会場上のグループワークを報告）

・会場の意見であるが、教育の方向性のポンチ絵を見て、この言葉の背景にある意味合いというものがなかなかわかりづらいという正直な感想をいただいた。指針と基本理念の関連性についても、もう少し分かりやすく説明をしてはという意見をいただいた。この点については、これからとりまとめていくにあたって、報告書にわかりやすい言葉でまとめて、次回の検討委員会で提案していきたいと考えている。

・より魅力的な教育内容について、カッコがきで明記しているが、大切にしている部分は何かということをもう少し絞ったらよいのではないかという意見が出ている。例えば、英語教育であれば、英語の授業やオンライン英会話タイムなど一対一のオールイングリッシュの活動も始まっているので、かなり聞く話す力はついてきており、中学校の卒業までに日常的な英会話は可能に、もっと言えば、英検二級を取得できるようになるという高い目標を掲げて、それを特色ある教育内容の目標に掲げることも必要ではないかという意見もあった。そういったところを含め、報告書ではもう少し教育のソフト面の部分を絞った内容で表記していきたいと考えている。

・大人との関わりというところでは、例えば英会話にしても、英会話できる環境を大人の学び直しや、大人が子どもと関わりたいことを実現できる環境など、子どもたちの学び場に大人も一緒に学べる生涯学習の場といった意味合いで再構築していくというのは大変重要なことではないかという意見もあった。

・また、誰でも気軽に立ち寄れる場としての学校については、管理面も含めて考えて精査していかないと良い関係にはならないというご意見もいただいた。

・これらのご意見を踏まえて、次回までに検討して、実際の報告書に反映してまいりたい。あまり硬い文章にならないように、わかりやすく表記も工夫しながらまとめていきたいと考えている。

【GPMO】

・【資料2-3】【資料2-4】について GPMO 及び事務局から説明。

【山崎（和）委員】

・土の違いを確かめながら遊ぶことも必要であり、大切にしているところ。一部芝生にするということはあるかもしれない。

【山崎（美）委員】

・今の土のグラウンドでは自由にラインが引きやすく使い勝手が良いというところもあるので、もし子どもたちが芝生で遊んだりすることであれば、例えば中庭とかに芝生を敷くのはあるのかなと思っている。全面的に敷くというイメージはない。

【倉斗委員】

・芝生については、目的が何か次第である。都市部では緑化率を上げることや砂埃をなくすために芝生化を進めていることも多い。一方で、人工芝は見た目は同じであるが、転んだりした時の摩擦熱などで怪我をする場合もあるので、様々な側面があることを踏まえて検討してもらいたい。また、日本では維持管理は大変であるのはあるが、芝生を維持管理することで地域と関わりを作っていくなど、それを通して何ができるのかを考えていくのが良いと思う。

・木質化、木造化については、最終的にはコストとの兼ね合いと考えているが、学びの環境としては大変良いと思っている。一方で、屋外の雨晒しの部分はメンテナンスの問題がでてくる。年1回地域と一緒に防腐剤を塗ったりするなど事例があり、学校が地域のものであるということを理解するための木質化という話にもなる。

- ・地域の総合スポーツ施設となると、プールを温水化するなどスペックが高くなると思うので、それが必要かは議論をする必要がある。複合化の事例で言えば、グラウンドやプールなどの施設のメンテナンスや維持管理を民間の運営会社に任せることができるので、学校側の負担が減り、学校側にメリットがあると聞いている。民間にどこまで任せるのか次第であるが、両者にとってWIN—WINになるような選択にもなりうると思った。
- ・高齢者施設は必ずニーズが出てくるとかあるところでもあるので、そういう方々と異年齢の交流が生まれるということも良いことであると思う。また、重度の障害のあるお子さんのための学校、例えば特別な支援が必要な肢体不自由のお子さんの学校となると、おそらく県内からも集まってくると思う。その子どもたちが学んでいる姿を子どもたちが見聞きしながらともに学ぶ姿がみられる。これら高齢者施設等の併設の事例はたくさんあると思うので、それが北川村全体の仕組み作りの中でマッチするかどうかは検討されたいと思った。

【伊庭委員】

- ・今倉斗委員が言われたかったことは大部分賛成です。例えば、統合型スポーツクラブに関して、施設の話から入っているが、別に施設がどうこうではなく、プールも体育館も学校ごとにあるのがおかしいという話の中で、サークル活動にしても、学校単位でやっているものを統合型スポーツクラブに全てまとめて統一していきましようということである。また、そこには本当のプロの専門の指導者がいて、先生達の労力を減らすという大きなメリットもある。全国には3000以上の統合型スポーツクラブがあって経営がうまくいっているのは、そのうちの割300ぐらいって言われている。北川村のような1000人規模の自治体であれば、施設そのものを学校の施設ではなくて統合型スポーツクラブの施設として作って、その施設を学校が使う形も良いのではないかと考えており、統合型スポーツクラブの理念をきちんとつくっていくということも大事だと思っている。
- ・芝生は何の目的のために実施したいのかを検討するべきである。昔は、芝生は夢のまた夢であったが、芝生で子どもを裸足で走り回らせたいとか、あるいは熱中症防止対策でやりたいとか、子どもの健康のためにやりたいなど、目的をしっかりと定めて方向性を見出していないと、単に維持管理が面倒だから止めておきましょうっていうことにつながる。
- ・木質化も同じであり、木質の方が良いと思っている。先ほど言ったように部屋の環境がマイルドになっていくということもあって、同じように目的意識がもうちょっと明確でないといけない。国の方が木質化を進めているのは木材資源を使いたかったというのがその頃はあったが、今は逆に木材が足りなくなっているという状況である。子どもたちのために木質化が重要というところは議論しておく必要があると思っている。

【事務局】

- ・次回、次々回検討委員会は、2月9日（水）、2月21日（月）になる。